

令和5年度 大町中学校の経営ビジョン

1 教育理念：聴く学校

学校は、そこで生活するだれもが、学び合い育ち合う場です。互いが互いの存在を尊重し合う、温かで幸せな学校であってこそ、私たちは自分のよさや可能性を認識し、多様な他者と協働しながら様々な問題を乗り越え、豊かな人生を切り拓いていくことができます。

学校が温かで幸せな場所であるためには、だれに対しても、どんな時でも、きちんと相手のことばを「聴く」姿勢をもたねばなりません。「聴く」ことを実践しているとき、私たちは自然に相手の立場を尊重しています。なぜなら、相手のことばを聴いている間、私たちは相手からのメッセージを知るまで、コミュニケーションの流れを相手に委ねるからです。つまり、この「聴く」は、音や言語を情報として耳に入れる「聞く」よりも、相手とつながろうとする明確な意志をもっています。そこには自己中心的な判断や偏った見方は存在しません。

本校では、このような考えの下、教育理念「聴く学校」を掲げ、全ての教育活動の場で「生徒の存在を丸ごと受け入れ、生徒の声や心の声（声なき声）に耳を傾け、共に歩む教師」を貫きます。互いの存在を尊重し合う温かで幸せな学校、生徒が自分自身に対して希望をもち自分の将来を前向きに考えることができる学校をめざして。

2 目指す学校像：生徒が生きることと学ぶことを統合する学校

人生で心と体が最も成長する青年期の大半の時間を、生徒は学校で過ごします。その中で最も長い時間が授業です。生徒にとって授業は、仲間と教師と共に新たな世界と出会い、他者と対話する時間であり、新たな自分の可能性を見出し、自己を形づくるための学びの時間であるべきです。本校の生徒を教育目標の「自立した学び手となる」へ導くためには、生徒が自主的・自律的に深く学べる授業を提供することが、教師の責務となります。

本校では、「協働の学び」を軸とした授業を全教科、領域で展開します。一斉授業を最小限に止め、「聴く学校」の精神に基づき、対話を基盤として少人数で課題について語り合う授業へと、授業観の転換を図ります。生徒は、「協働の学び」を軸とした授業において、教師や仲間からのさりげない一言で次への挑戦意欲を増したり、学びの魅力に開眼し夢中になったり、ものごとへの見方・考え方を更新させたりしていくでしょう。そして地域に開かれた教育課程によって学びの場を地域社会にまで広げ、授業を通して育んだ資質・能力を活用して探究的・創造的な学習に取り組むようになるでしょう。教室や実社会で深い学びを重ねることで、学んだことが自分とつながり、学ぶことによって自分が変わっていくおもしろさを経験した生徒は、学ぶことの意味や価値を自分の言葉で語れるようになります。こうして生徒が生きることと学ぶことを統合することで、自己実現をめざして生涯にわたって学び続ける学習者、すなわち「自立した学び手となる」という教育目標に近づいていくと考えます。

また、現在、生徒は様々な問題と直面しており、その多くは他者との関係性にかかわる問題です。本校は、「聴く学校」の理念に基づく「協働の学び」の授業によって、生徒を取り巻く問題の解決に挑みます。「聴く」ことを貫き、生きることと学ぶことを統合する学校文化を地域社会と共に築くことで、生徒がふるさと大町に誇りと自信をもち、自己実現をめざして生涯にわたって学び続け、持続可能な社会の担い手となってほしいのです。